

めぐみイエス・キリスト教会

2024年3月17日(日)第三主日礼拝

午前10時より

週報「通算第699号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

- 【前奏祈祷】
- 【賛美Ⅰ】 新聖歌108「丘に立てる荒削りの」p. 150
- 【交読文】 No.40 詩篇第126篇 p. 911
- 【賛美Ⅱ】 新聖歌127「墓の中に」 p. 453
- 【使徒信条】
- 【主の祈り】
- 【先週説教】
- 【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「復活の日の朝」
- 【聖書朗読】 ルカの福音書4章22節～30節(新約p. 116)
- 【礼拝説教】 《ナザレの人々の反応》
- 【聖餐式】
- 【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235
- 【平和祈り】
- 【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85
- 【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所（ルカの福音書4章22節～30節）

4:22 人々はみなイエスをほめ、その口から出て来る恵みの言葉に驚いて、「この人はヨセフの子ではないか」と言った。

4:23 そこでイエスは彼らに言われた。「きっとあなたがたは、『医者よ、自分を治せ』ということわざを引いて、『カペナウムで行われたと聞いていることを、あなたの郷里のここでもしてくれ』と言うでしょう。」

4:24 そしてこう言われた。「まことに、あなたがたに言います。預言者はだれも、自分の郷里では歓迎されません。

4:25 まことに、あなたがたに言います。エリヤの時代に、イスラエルに多くのやもめがいました。三年六か月の間、天が閉じられ、大飢饉が全地に起こったとき、

4:26 そのやもめたちのだれのところにもエリヤは遣わされず、シドンのツアレファテにいた、一人のやもめの女にだけ遣わされました。

4:27 また、預言者エリシャのときには、イスラエルにはツアラアトに冒された人が多くいましたが、その中のだれもきよめられることはなく、シリア人ナアマンだけがきよめられました。」

4:28 これを聞くと、会堂にいた人たちはみな憤りに満たされ、

4:29 立ち上がってイエスを町の外に追い出した。そして町が建っていた丘の崖の縁まで連れて行き、そこから突き落とそうとした。

4:30 しかし、イエスは彼らのただ中を通り抜けて、去って行かれた。

●ポイント1.「第Ⅰのしるしの時、主が言われたこと」とは？

※ヨハネの福音書2章4節「母マリアへの言葉から」 (新約p.178)

2:4 すると、イエスは母に言われた。「女の方、あなたは私と何の関係がありますか。私の時はまだ来ていません。」

●ポイント2.「マラキ書の預言」とは？

※マラキ書4章5節「紀元前430年の預言から」 (旧約p.1635)

4:5 見よ。私は、主の大いなる恐るべき日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。

●ポイント3.「故郷ナザレの人々の反応」とは？

※イザヤ書6章9節～10節「一番引用された旧約箇所」(新約p.1176)

6:9 すると主は言われた。「行って、この民に告げよ。『聞き続けよ。だが悟るな。見続けよ。だが知るな』と。

6:10 この民の心を肥え鈍らせ、その耳を遠くし、その目を固く閉させ。彼らがその目で見ること、耳で聞くことも、心で悟ることも、立ち返って癒やされることもないように。」

◎先週の礼拝メッセージ【故郷ナザレの会堂において】

《主イエスは、母マリアと弟と妹たちと弟子たちと共に、カナの婚礼からカペナウムにやって来ました。滞在中、主は、カペナウムの会堂において、奇跡を行なわれました。そして、それから主イエスは、家族と共に、故郷ナザレに戻ります。主イエスは、公生涯において、二度もしくは三度ほど故郷ナザレに赴いています。その初めての故郷ナザレへの帰還の場面が、今日の聖書箇所となります。

「いつもしているとおりに安息日に会堂に入り、朗読しようとして立たれた」とあります。このことから、主イエスは安息日には、聖書を朗読して奨励をしていたことがうかがえます。この時、イザヤ書が渡されます。「主の霊が私の上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、主は私に油を注ぎ、私を遣わされた。捕らわれ人には解放を、目の見えない人には目の開かれることを告げ、虐げられている人を自由の身とし、主の恵みの年を告げるために。」そして、主は言われるのです。

「あなたがたが耳にした通り、今日この聖書の言葉が実現しました。」この時、主はご自身こそが、メシアであることを、初めて公にされたのです。しかも主が、「ナザレのイエス」と呼ばれる為にも、故郷ナザレにおいて、メシア宣言をされたことは、大いに意味があります。なぜなら、この日から主の三年半における公生涯が始まったからです。

マタイは、次のように書き記しています。

『そして、ナザレという町に行って住んだ。これは預言者たちを通して「彼はナザレ人と呼ばれる」と語られた事が成就する為であった』と。

主イエスは、故郷ナザレにおいて、拒絶させられる事を承知で、戻って来られたのです。主は、多くの弟子を連れて、もう一度ナザレに来られます。再び、故郷ナザレの人々に、良き知らせを告げ、恵みを施す為にです。ここに、主の故郷の人々に対する愛があるのです。》

お知らせ

※次回は3月24日(日)、通常通り午前10時から行ないます。今年は、3月31日(日)がイースター礼拝です。特別メッセージとなります。